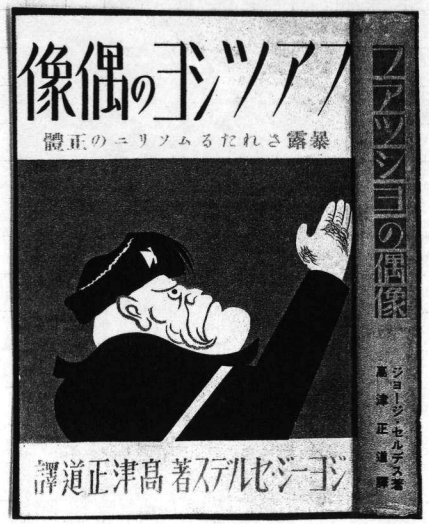


高津止道 おかつ せだう 評論家、政治家。明治二十六年四月、千代田県馬場町生まれ、昭和四十九年一月九日歿（八十三歳）。別名樺山寛一。大正九年早稻田大学在学中、曉民會を組織して浪學處分、十一年日本共産黨創立に参加、翌年ソ聯に入会し、十二年歸國して下獄。昭和二年（福本イヅム）の反對して脱黨し、郷里で中國無産黨を組織し、のち全國大衆黨（合同）。十二年人民戦線事件で検挙。二十年日本社会黨結成に参加し、翌年衆議院議員（常選、五回）、二十九年同院副議長。

著書『無産階級と宗教』（昭和四年十二月五日大鳳閣書房）、『社会科擧と宗教』（合著・奥田忠重編、昭和五年九月十五日大東出版社）、『搾取に就る人々』（昭和六年一月十五日大鳳閣書房）、『新時代雄辯・政治篇（十七人集）』（編、昭和八年六月、二十日新時代雄辯會、先進社發賣）、『グラハム・ヤラン・レイニング原著』何かがテクノクラシー



か』（ポール・ケート共譯、昭和八年二月二十日日本凡社）、『ジギー』（セルゲイ著）『アツシヨ』の傳像―暴露されたるムソリニの止



體』（譯、昭和十一年十二月十五日新生社）、『ソソの勝因とドイツの敗因』（昭和二十年十一月二十五日海洋社）、『親米か反米か―新しい愛國者の道』（昭和二十八年一月二十一日風間書房）、『回想の徳田球

一 〔合署、昭和二十年十月〕 平白兼洋書館編刊〔等〕。